【中国学術オンライン】

中国人民大学・一橋大学共同シンポジウムを人民大学で開催

掲載日時：2009-11-2 16:56:00　中国人民大学 HP よりの記事転載

「2009 中国人民大学・一橋大学共同シンポジウム——世界不況と日中の役割」（主催：中国人民大学、一橋大学／特別協賛：みずほフィナンシャルグループ／協賛：中国人民大学経済学院、中国人民大学深セン研究院、北京長安投資集団有限公司）が、10 月 31 日、中国人民大学の逸夫ホールで開催された。中国人民大学常務副学長の袁衛教授、一橋大学副学長の山内進教授、みずほコーポレート銀行執行役員・中国営業推進部長の中澤幸太郎氏が出席し、祝辞を述べた。また、国家開発銀行顧問で全国政治協商会議委員の劉克崮氏、国家外貨管理局副局長の王小奕氏、国務院発展研究センター・社会発展研究部副部長の林家彬氏の指導者も出席した。シンポジウムでは、日中の研究者約 10 名が学術講演を行い、中国人民大学深セン研究院院長の陳建教授と一橋大学大学院商学研究科の三隅隆司教授が議事進行役を務めた。

午後のフォーラム開始前、中国人民大学の紀宝成学長が逸夫ホールで、一橋大学の山内副校長一行や来賓、指導者と会見した。紀学長は一橋大学代表団の来訪を歓迎するとともに、中国人民大学の近年の学科設置状況等について説明した。両校は今回のシンポや今後の交流活動に関する意見交換を行った。会談終了後、紀校学長と来賓は逸夫ホール前で記念撮影をした。

袁常務副学長は挨拶の中で、「人民大学と一橋大学は長期にわたり、経済、法学、商学、社会学の分野で様々な形での交流や協力を行い、大きな成果をあげてきた。本日の共同シンポジウムは、中日の友好協力が脈々と続いていることの表れと言える。また、世界不況の中、各国による地域協力を強化し、調和のとれた世界をつくり、発展を促すことが重要であるというメッセージの伝達にもなる。さらに、中国人民大学の理論経済研究を経済発展の実践と結び付け、我が国の理論経済研究の成果を海外の産学界と連携さるものだ」と述べた。

一橋大学の山内副学長は、「一橋大学も人民大学も人文社会科学をメインとする高等教育機関であり、今回のシンポジウムの開催は、日中文化交流のモデルになるだろう」と挨拶した。

午前の基調講演では、中日双方がそれぞれ世界経済危機や中日両国への影響について、また、中日はいかに協力を強化するかをテーマに討論した。具体的な講演者とテーマは次の通り。

- 一橋大学商学研究科長　清水啓典教授 「世界金融危機後の金融規制と日中の役割」
- 元中国証監会主席　劉鴻儒氏 「世界金融危機と中国金融政策」
- みずほ総合研究所市場調査部長　長谷川克之氏 「世界的金融危機と日中の金融・経済」
- 中国石油天然ガス集団公司資本運営部主任　于毅波氏 「現在の中国経済が直面する課題と対策」
- コマツ顧問　安崎暁氏 「世界不況後のグローバル企業発展の方向」
- 人民大学経済学院　黄衛平教授 「グローバル時代のサブプライム危機と中日の対応策」

国際協力銀行総裁兼 CEO で、元一橋大学教授　渡辺博史氏 「アジア金融協力」

午後はパネルディスカッションを実施した。中日双方が「世界不況後の世界経済の発展動向」や「中日両国は如何にして世界経済発展に協力していくか」をテーマに熱弁を交わし、会場の聴衆からの質問にも答えた。素晴らしい講演内容に客席から大きな拍手が沸いた。

閉幕式では、中国人民大学経済学院の楊瑞龍院長と一橋大学商学研究科長の小川英治教授が総括を行った。両教授は今回の共同シンポジウムの成果を高く評価し、今後、両校の学院と研究科は、より幅広い分野での交流や協力を深めていきたいと結んだ。

新華社、中央テレビ局、経済日報等 10 社余りのメディアが取材に訪れた。